グエン朝王宮の太和殿

特集

東南アジア「世界遺産」を航く

栄華を誇った王朝建築、異文化が交流した古き港町、
世界最大級の仏教遺跡、希少な動植物が棲む熱帯雨林――。
今回は、多様な自然・文化が息づく東南アジアの世界遺産の知られざる魅力をご紹介します。

自然・文化遺産の宝庫 東南アジア

世界遺産の魅力はなんと言っても、それぞれの遺産が有する「顕著な普遍的価値」(Outstanding Universal Value) でしょう。各国を代表する遺産は、地球の歴史46億年、人類の歴史500万年の中で、多様な分野を代表するナンバーワンやオンリーワンなど、独自性のある厳選されたものばかり。そんな世界遺産を旅し、人類の偉大な叡智や驚異的な自然の美しさに触れることは何にも代えがたい感動です。

現在、世界遺産の数は161の国と地域にまたがる1007件。そんな数ある世界遺産の中から今回は、皆さんがあまりご存知でないであろう東南アジアの自然遺産、文化遺産の魅力をお届けします。

東南アジアとは、インドシナ半島、マレー半島、インドネシア諸島、フィリピン諸島などからなる中国より南、インドより東のアジア地域を指します。大部分がケッペン気候区分の熱帯に属し、その温暖な気候と大陸部から島しょ部にいたる変化に富んだ環境の中で、特有の自然・文化が育まれてきました。

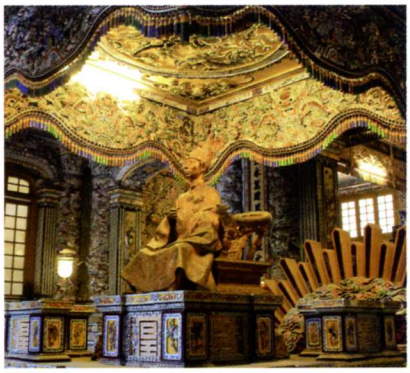
そのため、自然遺産では、火山を含む山岳、湾、半島、島、石灰岩カルスト、洞窟、珊瑚礁、地下河川、森林など。文化遺産では、考古学遺跡、建造物群、モニュメント、自然と人間との共同作品ともいえる文化的景観など、実に多様な世界遺産に出合うことができるのです。そんな東南アジアの世界遺産を私と一緒に巡っていきましょう。

〈監修〉古田 陽久(ふるた はるひさ)
世界遺産総合研究所 所長。日本における世界遺産研究の先駆者として「世界遺産学」を提唱し、1998年から現職。世界60カ国、約300の世界遺産地を歴訪し、世界遺産委員会にもオブザーバーで出席。著書に『世界遺産データ・ブック』、『世界遺産ガイドーユネスコ遺産の基礎知識』など多数。

東西の文化が混合した悠久の古都

ベトナムはかつて北部のチン朝と南部のグエン朝に分かれて対立していましたが、1802年、フランス人宣教師などの支援を受けたグエン朝のザロン帝こと阮福暎（げんふくえい）によって統一されました。このベトナム最後の王朝となったグエン朝の首都として繁栄したのがフエです。ベトナム中部の都市ダナンの北西約100㎞に位置するこの地には、1945年まで13代にわたって栄華を誇ったグエン朝の王宮を中心に碁盤目状の方形都市が築かれました。その規模は5.2㎢にも及びます。

南シナ海に注ぐフォン川左岸の旧市街には、交流のあった中国やフランス、それに亜熱帯特有の文化が混合した独特の様式の建物・城壁が見られ、王宮殿をはじめ、第4代皇帝トゥ・ドゥック帝、第12代皇帝カイ・ディン帝などの歴代皇帝廟や寺院などが当時の繁栄を今に伝えています。


第12代皇帝カイ・ディン帝の像

そして、ダナンから南へ約25㎞、南シナ海に面するクアン・ナム省には、古都ホイアンがあります。その昔、ヨーロッパの貿易商人にフェイホという名で知られていたこの町は、16世紀から18世紀にかけてグエン氏政権のもと中国や日本、ヨーロッパとの国際貿易港として栄えました。

江戸時代にあたる17世紀には日本の朱印船が行き来し、日本人街も形成されたといいます。当時の日本人のお墓や「日本橋」の別名を持つカウライヴィエン橋のほか、交易の証とも言える伊万里焼の磁器も発見されるなど、日本との関わりも深い遺産です。トゥボン川に沿って続く、多様な文化を背景にした美しい街並みは訪れる人々を魅了して止みません。

ベトナム

文化遺産

フエの建造物群／古都ホイアン

Complex of Hue Monuments
Hoi An Ancient Town

（上）ホイアン名物ランタンの幻想的な光
（下）古都ホイアンの街並みとトゥボン川
（左）カウライヴィエン橋（日本橋）

インドネシア

文化遺産——

ボロブドゥール寺院遺跡群

Borobudur Temple Compounds

ブッダの思想を表す世界最大級の仏教遺跡

8～9世紀にシャインドラ王朝が建築した大乗仏教の世界的な石造の巨大仏教遺跡。カンボジアのアンコール、ミャンマーのパガンとともに世界三大仏教遺跡のひとつに数えられるのが、ボロブドゥール寺院遺跡群です。

ジャワ島中部、ジョグジャカルタの北西約42kmのプロゴ渓谷にあるこの遺跡には、三層からなる聖殿がそびえます。120m四方の基壇の上に5段の方形壇と3段の円形壇を重ね、最上段の仏塔を載せた壇台には72基のストゥーパ（仏塔）と仏坐像。それぞれ下から地下界、人界、天界を表し、全体で仏教の世界観を象徴するとされます。

そして、各回廊はブッダの生涯や仏教の説話を刻んだ千数百点にも及ぶレリーフで埋めつくされています。特にブッダの生誕からシッダールタ王子として奔放な生活を送った時代を経て、悟りを開くまでを表現した浮き彫りの絵物語は芸術的価値も高く必見です。そびえ立つ聖殿全体を見上げると、それ自体がひとつの大きなストゥーパにも感じられる威厳があります。

（上）聖殿最上段のストゥーパと仏坐像
（下）そびえ立つボロブドゥール寺院 聖殿

フィリピン

自然遺産——

プエルトプリンセサ地下河川国立公園

Puerto-Princesa Subterranean River National Park

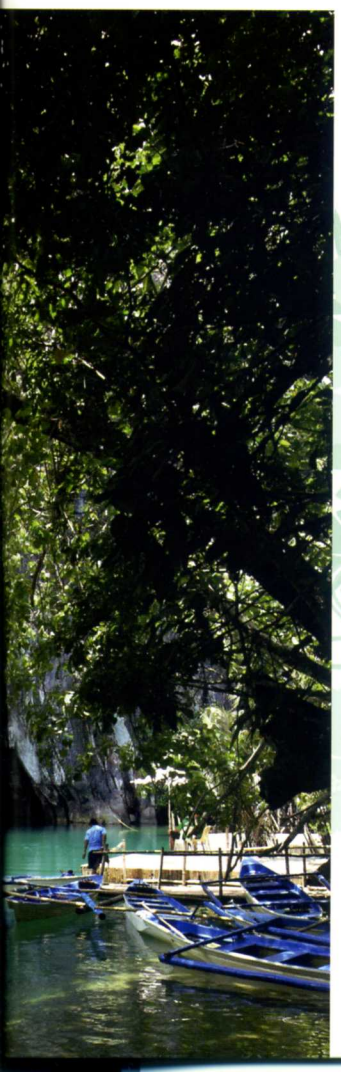
パラワンコクジャク

希少な生態系が残る楽園の秘境

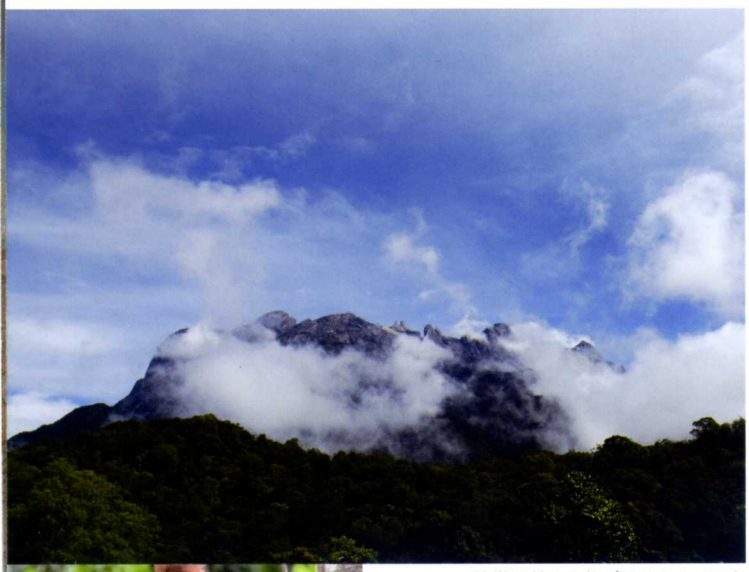
プエルトプリンセサ地下河川国立公園は、フィリピン最後の楽園といわれる南西部のパラワン島のセント・ポール山岳地域にあります。公園一帯は、石灰岩などの岩石の地層が地下水などで溶かされてできたカルストの台地。その台地の地下は鍾乳洞になっており、世界最長となる約8.2kmの地下河川が流れています。この川や美しいカルスト地形をボートに乗って探検することができるアンダーグラウンド・リバー・ツアーが人気です。

地下河川は直接海に注ぎ込み、下流の河口部は潮の干満の影響で特殊な生態系が保たれています。また、この地域は年間平均降水量2000～3000㎜、平均気温は27℃で、アジアでも有数のパラワン湿性林が繁ります。そんな手つかずの大自然は、固有種のパラワンコクジャクやパラワンヤマアラシなどをはじめ、希少な動植物・昆虫たちの楽園でもあるのです。

近隣の無秩序な観光開発により、貴重な森林が脅かされている一方で、こうした自然遺産は、生物多様性の保全においても非常に重要な存在となっています。



カルスト地層の断崖がそびえる地下河川入口



熱帯雨林から仰ぎ見るキナバル山

マレーシア

自然遺産——

キナバル自然公園

Kinabalu Park

5千種を超える植物が生える伝説のジャングル

熱帯雨林から高山植物まで、多種多様な植物が生い茂る生命の宝庫、キナバル自然公園。マレーシア諸島中北部、ボルネオ島にそびえるキナバル山を中心として、753㎢もの森林が広がる広大な自然遺産です。

マレーシア最高峰を誇る標高4095mのキナバル山から標高150m程の熱帯雨林にかけて変化する気候。それにより、高山性の動植物から高温多雨を好む東南アジア特有の動植物まで、さまざまな生物が息づいています。一生のうち開花期間は数日間という〝幻の花〟ラフレシアや〝森の住人〟オランウータンなど、絶滅の危機に瀕する種が多いのも特徴です。

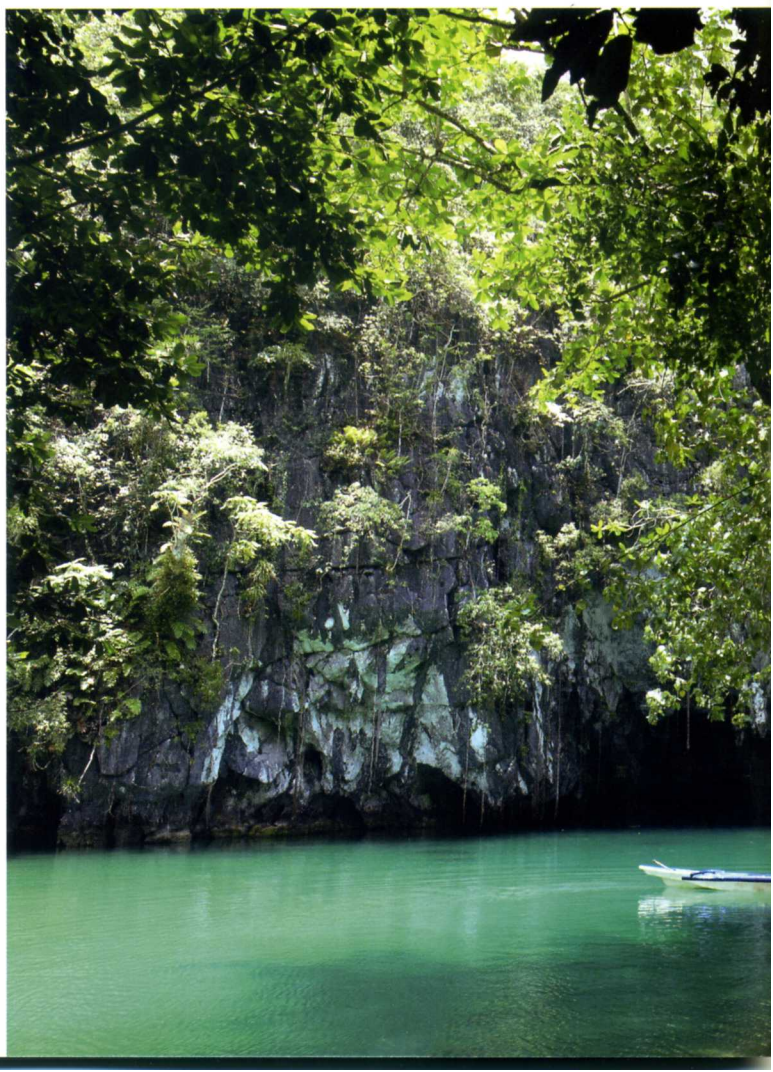
キナバル山は地元の人々にとっては信仰と伝説の山でもあります。その昔、山には美しい宝石を持つ竜が棲んでいました。ところが、あるとき兄弟の王子がこの宝石を奪ってしまいます。それに怒った竜が激しく暴れると、海が荒れ、山が裂けてしまい、キナバル山が現在のような高峰になったと伝えられています。また、「キナバル」はマレー語で、中国寡婦を意味し、中国に帰国した夫を偲ぶ先住民の妻の伝説なども残っています。こうした民族的な伝承が、この地をより神秘的なものに魅せ、私たちの冒険心をさらにくすぐるのです。

（上）公園内で保護されるオランウータン
（下）世界最大級の花ラフレシア

にっぽん丸スタッフ 世界遺産体験記

今回ご紹介したような世界遺産を探訪できる、来年1月からの東南アジアクルーズを前に、現地を視察してきました。フィリピンのプエルトプリンセサ地下河川国立公園は、野生の大トカゲを間近に見たり、迫力満点の地下河川の洞窟をボートで探検したりと大自然が満喫できる、まさに手つかずの秘境でした。

また、世界遺産地の伝統文化や衣食住の風習など、形のないものにも大きな価値があります。例えば、ベトナム・ホイアンでは、三大名物の揚げワンタンや伊勢うどんの原型ともいわれるカオラウ、ホワイトローズという水餃子などの現地グルメが楽しめます。こうしたものに触れることで、さらに世界遺産への理解や感動が深まると思うのです。そんな体験をぜひご一緒に！クルーズでお会いできるのを楽しみにしています。

（上）プエルトプリンセサの大トカゲ　（下）ホイアン名物カオラウ

にっぽん丸
ツアーディレクター
藤川 悟